

【知事、教育長への質問】

生徒： 高校進学するとき、地元から高知市内の学校へ行く子が多くて、室戸に残る子が少ないので、地元に残るような制度をつくって欲しいです。

教育長： そうですね。今、大体、室戸市で中学校を卒業して室戸高校に入って来る生徒の割合は半分くらいでしょうか。半分くらいが外に出ていると思うんですね。

じゃあ、どうして高知の学校に行くのかな。室戸高校がもっともっと魅力ある学校になったら室戸高校に進学する生徒が増える。そういう学校には誰がしていく？ 室戸高校の先生、それから私のような教育行政をしている人、それから、室戸高校の生徒で、良い学校にしていけば、室戸高校に行こうという生徒さんが増えてきますよね。

例えば学力、スポーツの面もそうかもしれないし、芸術の分野もそうかもしれないし、さっき言っていた福祉、工業の分野だとか、生徒さんにはそれぞれ自分の興味のある分野というのがありますよね。それぞれの分野で特徴、素晴らしさを出していくしかないと思います。子どもの数はどんどん減っている中で、できるだけ多くの子どもが室戸高校に進学をしたくなるような、魅力ある学校にしていかなければなりません。私どもも頑張ります。生徒さんも一緒に頑張らしましょう。

生徒： 室戸はスーパーなどがバリアフリーになっていないのですが、室戸は高齢者が多いので、バリアフリー化して欲しいです。また、家族や友達が遊ぶレジャー施設が少ないので、できたらいいと思います。

知事： そうですね。バリアフリー、もっと言えばユニバーサルデザインを進めていくことが重要です。新しい施設を作る時は、できる限りユニバーサルデザインを進めていっています。あと、もう一つは、今あるところでも不便な部分を直していかないとイケません。こういうところが特に不便だという部分を是非、声をあげて教えていただきたいと思っています。

もう一つは、レジャー施設が少ないということですが、室戸には素晴らしいレジャー施設があると思います。きれいな海があって、ジオパークがあって、恋人岬がある。あの室戸岬の灯台あたりから見る星はものすごくきれいです。あの星は、日本中のどこに行っても、そう簡単に見られるものじゃないと思います。

他の県にも当たり前にあるようなレジャー施設があれば、確かに便利かもしれませんが。しかし、室戸には、他県には無い素晴らしいものがたくさんあります。それは、皆さんご存じだと思います。それを売りにして、レジャー施設にすることを考えられるといいかなと、そういう感じがします。

ジオパーク、恋人岬の取り組みや、ドルフィンセンターなど、室戸の自然を生かしたレジャーというかたちで、やっていけばいいのではないかと思います。

生徒： 室戸市は交通機関があまり充実してなくて、バスも時間帯は1時間に1回とかです。室戸は高齢者が多いので、病院に通院するとなると、高知市に行かなければならないと思います。その時に、ごめんなはり線を使うなら、奈半利までバスで行かなければならず、そこからまた、高知まで行って通院して、治療費も払うとなると、すごい金額になると思います。できれば、室戸にも電車を通していただいて、高齢者が安く病院に行けて、治療も受けられるようになればいいなと思います。電車が通ることで、室戸高校への進学を、田野や安芸に住んでいる子ども達が考えてくれるのではないかと思っています。

知事： 残念ながら、電車を室戸までというのは難しいと思います。電車を室戸まで通した時に、利用する人の数が少なくて採算が合わず、その会社がつぶれてしまうことになるかも知れません。これが一番難しいところ。

高知県には新幹線がありません。もっと言えば、他県にあるような電車がありません。路面電車はあるけれど、いわゆる電気で動くものがない。高知県にはいろんな、他の県にあるけれどないものがたくさんあります。人口が少ないので、採算が合わないからないということがたくさんあります。室戸市では、高知市にはあるものも、室戸のほうが人口が少ないから採算が合わないので出来ないものも多くある。ゆえに不便だということがたくさんあると思っています。

これをできる限り、官で何とかするように努力をすることが重要だと思います。室戸まで、高速道路を引っ張ってくることはできないにしても、せめて奈半利までの間には、できるだけ良い道に作っていきましょう。さらには、病院も高知市まで行かないで済むようにするために、少なくとも安芸・芸陽病院に良い医師を確保し、良い医療が受けられるようにしましょう。それでも高知市に行かないといけない場合には、ドクターヘリのようなものをもっと充実させましょうとか。どうしても人口が少なくて厳しい側面がある分を、少しでも埋められるように努力する。そういうことじゃないのかなと思います。

ただ、ひとつだけ夢があります。デュアル・モード・ビークルという車になったり自動車になったりする車両を使って、鉄道路線が無いところに車を少しでも通すことができないかと、技術の研究しています。それならできるかもしれない。ただ、時間がかかるとは思いますね。

生徒： 室戸には「やすらぎ」というホールがあって、そこで毎年、中学校と高校が1回ずつ定期演奏会をしています。そのホールを借りるお金を、室戸中学校は市のほうが出してくれているんですけど、高校は県の学校なので、お金を自分達で負担しなければなりません。それがすごく活動するうえで負担になっているので、少しでも援助していた

だけたらなと思います。

教育長： 中学校の場合は室戸市立の中学校で、室戸高校は県立の学校だからだと思います。こういう問題は県内にもいくつもあると思いますが、にわかにお答えはできません。勉強させてください。どんなやり方ができるのか。

知事： できるだけ、皆で使えるようにしたいですもんね。これは、大人の世界でいう「制度の壁」というやつだとは思いますが、ちょっと勉強させてもらいましょう。

生徒： 南海大地震が来た場合、県はどのように対応されるのでしょうか。

知事： 南海地震については、南海地震条例（「高知県南海地震による災害に強い地域社会づくり条例」）というのがあります。それに基づき、南海地震対策について大きく言うと、二つの計画を作って対策を練っています。

一つはどのようなものかという、南海地震が来た時、少しでも被害を小さくするために、事前に準備をしておこうという計画です。例えば、必要なところに堤防や津波避難タワーを作ったり、あらかじめ避難経路を皆で共有するために、地域の自主防災組織をつくる活動をしようとする計画（「高知県南海地震対策行動計画」）があります。

もう一つあります。これが重要なんですけど、南海地震が来た直後に、どうやって復旧復興を図っていくか、応急対策をどうやっていくか、起きた直後にどうするか対策を考え、応急復旧計画（「高知県南海地震応急対策活動計画」）という計画を作っています。例えば、室戸で一番心配されるのは津波です。津波が来た。それに対してどう避難し、避難したあとの人々に対してどうやって食糧を供給していくか考え、対策を練っています。

30年以内に南海地震が来る確率は、60%だというふうに言われています。しかも、地震が起こったあと、津波が繰り返しやって来るということが想定をされているわけです。その被害を減らすために、日ごろから備えをすることが第一です。第二は、地震が来た直後の復旧対策です。この二つの計画を立てて取り組みを進めているところです。

生徒： 知り合いに仙台の方がいるんですけど、仙台城で鎧（よろい）とか兜（かぶと）を着た人達が、地域の活動としてイベントをしたりしているようなのですが、高知城では出来ないのでしょうか。

知事： 武者行列のようなものですか。特に長宗我部がお薦めなんですか？ それは分かります。幡多のほうでは一条公の行列とかやっていますからね。

(南国市) 岡豊の歴史民俗資料館では、長宗我部コーナーを設けています。テレビゲームのおかげで元親がすごく人気者なので、全国からいろんな方々が集い、元親を盛り上げようとしてくれています。そういう衣装も着てる人もいたりするので、今、確実に盛り上がってきていると思いますよ。是非、進めていきましょう。県も歴史民俗資料館のほうで応援しています。

生徒： 県に120年分くらいの天然ガスがあると聞いたのですが、本当ですか。

知事： この土佐湾、室戸岬の沖のほうに、とてつもない資源があるのは確かです。メタンハイドレートといって、メタンガスがシャーベット状になっているものです。それが、高知県土佐湾、室戸の沖のほうに大量にあることがわかっています。これを掘り出すことができれば、日本にもたくさん資源があるということになるんですが、課題が二つあります。

一つは、メタンハイドレートを取り出して、エネルギーとして使えるようにするには、ものすごくお金がかかるんです。なぜなら、海のすごく深いところにあるシャーベット状のものを気体にして取り出すことが、難しいからです。だから、エネルギーとして高すぎるということになりかねないのが第一の課題です。

今、国も研究を進めていて、本格的な活用しようとするには、10何年以上かかるんじゃないかなと言われていています。だけど、これは高知県としては要注目資源です。それは間違いのないところだと思います。

ただ、もう一個ある。メタンガスを全部取り出して、地球上にあるメタンガスを取り出していくと、温暖化対策がものすごく大変になるんじゃないかという意見もあって、そのところも考えながら開発をしないといけないということがあります。

生徒： 室戸高校にクーラーを付けるのは不可能でしょうか？

教育長： 私も付けてあげたいんですけど、室戸高校にだけではなく、全部の高校にしなきゃいけないので。ですから、今は、PTAの方、保護者の方が付けてくれているという状況があります。でも、勉強しろと言われても暑すぎて勉強できませんよね。だから、少しずつでも増やしていきたいと考えています。

生徒： 知事の子どもの頃の夢は何でしたか？

知事： 子どもの頃は、プロ野球の選手やパイロットになりたかったりしました。そして母が病気になって、その病気を治してくれた医師になりたいと、長いこと思って

いました。そのうち、「竜馬がゆく」を読んで政治家になりたいと思い、今に至ります。だけど、30代の時には、東京で公務員をやっていたので、そのまま公務員でいようかなと思っていました。そしたら、今回ご縁があって県知事選挙に立候補させていただいて、今に至ると、そういう感じです。

生徒： 知事は今後、どんな高知にしていきたいと考えていますか。

知事： できるだけ多くの若い人が残りたいと思えるような、高知県にしていきたいと思っています。

そのためにも高知県の産業を元気にし、福祉や教育を充実させていくことが重要だと思っています。

どうやって産業を元気にしていくか。僕は無いものねだりをしても仕方ないと思っています。でかい工場がないから高知県は貧乏だといっても、それは仕方がない。そうではなく、今、高知県が持っている強みを伸ばしていくことを考えるべきだと思っています。高知県が持っている自然、これを大事にして伸ばしていこう。地域にある一次産業を大事にし、例えば、加工品を作ったり、それを観光に生かして、関連産業を育てていくなど、そういうことで高知県を元気にしていくことが重要だと思いますね。

無いものねだりをするのではなく、自分の持っている強みを伸ばしていこう。ずいぶん自信を持っていい強みだと思います。レジャー施設はないけど、他の県から見たら、うらやましいと思うようなものがたくさんあるのが、この室戸だと思います。これから皆で頑張って伸ばしていきましょう。

生徒： 尖閣諸島のことで少し前に日本と中国との間でいざこざがあって、中国人船長が釈放されたことについて、政府の判断についてどう思われますか。

知事： 個人的にどう思うかということでは、僕も昔、3年間外交官をやっていたことがあります。外国との関係は、そもそも考え方が180度違って、お互いに「はいそうですか」とは言えない問題がたくさんあると思います。領土問題もその典型だと思います。

ある問題について、ある国が強硬な姿勢をとると、相手も強硬な姿勢をとり、エスカレートしていくということは、あちこちで起こり得る問題だと思います。だから、強硬な姿勢をとるのか、それとも友好的な姿勢を取るのか。これを選ぶ時には、先々どうなるかということを考えて、対応を練る必要があったんじゃないのかと思っています。

今回、日本政府は、いきなり強硬な姿勢をとりました。中国もそれに対して強

硬な姿勢をとり、それによって、どれだけ安全保障上の緊張感が高まり、また、経済的な損失が出たか。お互いそれを考えて、日本も中国も譲歩したんです。両国の関係に、これだけ緊張感をもたらして、この問題を解決したというのは、ちょっと残念だったかなと私は思っています。

最初からどれくらいの対応をすれば、どういう結果が出てくるかということをよく見て対応すべきじゃなかったのかなと。逮捕しておいて、国内法に基づいて厳正に対応しますというやり方は、そこまでタフなやり方をすべきだったのか。それとも、韓国がよくやっているように、いきなり強制退去というかたちで決着をみるというやり方もあったかもしれません。

同じようなことが今後も出てくるかもしれない。この手を打つと次の手がどうなるか。その次、こっちはどう手を打って、相手がどう出てくるか。そのシナリオをよく考えて、今後の対応を考える必要があるんじゃないかと、そういうふうに思っています。